
松岡紀雄教授並びに小松幸円教授の 神奈川大学経営学部退職に当たって

経営学部長 照屋行雄

神奈川大学経営学部の松岡紀雄教授並びに小松幸円教授の両先生には、2011年3月末日をもって本学を退職されることとなりました。松岡先生は満70歳を迎えられての定年退職であり、小松先生は定年まで7年を残されての早期退職であります。

経営学部では、両先生の長年にわたる教育・研究活動とその多大なご業績を讃えるとともに、経営学部および神奈川大学の発展に尽力された格別のご貢献に感謝申し上げ、学部教授会として両先生に対して名誉教授の推薦と感謝状の贈呈を決定したところであります。併せて、本誌41号を両先生の退職記念号として発行することとしました。巻頭に、経営学部長として両先生への感謝と送別の言葉を献じたいと思います。

松岡紀雄先生は、1987年8月に本学国際経営研究所の主任研究員として着任され、学部創設に伴い1990年10月より経営学部の教授に就任されました。続いて1993年4月には大学院経営学研究科博士前期課程教授、1999年4月には同博士後期課程教授に就任されています。学部や大学院でのご担当科目は、企業広告、海外広報、文章表現法、専門演習、海外広報特講など多彩です。社会活動でも豊富な実績を残されています。

松岡先生は、教育に熱心に取り組み、多くの学生の成長を支援されてきました。とりわけ年々低下しがちな学生の基礎学力の向上には、人一倍努力を払われました。松岡ゼミナールは学生に人気が高く、ゼミ卒業生の結束も固いと聞いております。先生は、学生の指導に熱心だけでなく、行政機関の委員や各種の社会活動を通じて一般市民の意識向上や企業人の実力養成に貢献されてきました。

小松幸円先生は、1971年4月に神奈川大学外国語学部の助手として採用され、湘南ひらつかキャンパスが開設された1989年4月には経営学部所属となり、そして、1993年4月に教授に昇任されています。学部でのご担当科目は、健康科学、競技スポーツ、体力診断の理論と実際、専門演習などです。また、伝統ある本学剣道部の顧問として選手の指導に当たられる一方で、日本体育大学他の大学でも教育貢献されています。

小松先生は、若い学生諸君の成長過程においては、健康の管理と体力の強化が基盤とならなければならぬ、との確固とした信念をもって指導に当たられています。実際、同じキャンパスの経営学部および理学部のすべての学生の体力を継続的に測定し、そのデータベースの確立と教育指導への反映に尽力されました。小松先生は剣道を始められて50年、高位6段まで昇段され文字どおり剣道一筋の人生を貫いておられます。

経営学部の教育改革や学生指導のあり方について、20年に及んで共に懸命に模索してきた両先生との思い出は少なくありません。経営学部全新生を対象とした学外宿泊オリエンテーションの実施、入学試験での地方出張、長時間に及ぶ教授会での議論、カリキュラム改革への貢献、ゼミ合宿や課外活動での指導、キャンパス施設の整備等々、多くの場面で両先生と席を同じくしたことが懐しく思い出されます。

松岡先生には、特にプレゼンテーション時の適切な時間管理の方法をご指導頂き、また、国際社会の変化の本質を見抜くことの大切さをご教示頂きました。小松先生には、特にスポーツマンシップの一端としての責任感の強さについてご指導頂き、また、誠実と勇気をもって艱難に立ち向う姿勢をご教示頂きました。両先生から折に触れて頂いた様々な教えが、筆者の血となり肉となっているように思います。

経営学部の創設期から学部発展のために粉骨砕身尽力され、多くの学生諸君の知性と個性の育成に貢献された両先生が退職されることは誠に残念ですが、後に続く私どもが両先生の残された成果を引き継いで、本学部躍進のために努力したいと考えております。松岡紀雄先生並びに小松幸円先生には、本学退職後ご健康に留意され、幸福で満ち足りた人生をお過ごし下さいますよう祈念申し上げます。